

二次骨折予防を目的とした骨粗鬆症疾患啓発 事業報告書

2022年8月4日
佐倉市健康保険課

目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果
2. 疾患啓発事業の概要
3. 事業結果
4. 参考資料
 - 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
 - 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
 - 送付した勸奨資材

サマリ

実施背景

- 骨折は医療費の上位要因と言われていることから、レセプトデータより骨折による医療費負荷がどの程度かを把握することにした。
 - 骨折の中でも、わずかな外力で生じる骨折(脆弱性骨折)を経験した人は骨粗鬆症による骨折をくり返すリスクが高い。なかでも椎体骨折と大腿骨骨折の既往歴がある場合には、原発性骨粗鬆症の診断基準において、骨密度の結果を問わず骨粗鬆症と診断され、薬物治療の対象となる。
 - しかし、このような骨折リスクが高い対象者であっても骨粗鬆症の治療率は低位にとどまると報告されていることから、骨粗鬆症による再骨折の可能性を伝えることで適切な検査と治療へ誘導し、二次骨折対策による健康寿命の延伸と医療費介護費の適正化を推進する取り組みの企画・実施を行った。
-

事業内容

- レセプトデータの分析により、骨粗鬆症による骨折が医療費に与える影響や、骨粗鬆症の治療状況を明らかにした。
 - 骨折リスクの高い対象者(非外傷性の椎体又は大腿骨骨折の既往歴がある骨粗鬆症未治療者)を、医療機関への受診そして骨粗鬆症の検査と治療に繋げることを目的とし、医療機関への受診を推奨する通知物を送付した。
-

実施体制

- アムジェン株式会社、株式会社キャンサーズキャンと骨粗鬆症疾患啓発の協定を2020年11月に締結し、この協定のもとに3者の官民連携事業として実施した。

スケジュール

- 疾患啓発・受診勧奨事業として、対象者へ2021年3月22日に通知を送付した。
-

事業の結果(受診勧奨後6ヵ月時点における)

- レセプトデータにて、疾患啓発・受診勧奨通知を送付した後に医療機関を受診していた人数を集計した結果、対象者の11.1%が骨粗鬆症に関する診療へと繋がった。

目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果

2. 疾患啓発事業の概要

3. 事業結果

4. 参考資料

- 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
- 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
- 送付した勸奨資材

佐倉市国保データ分析結果のまとめ

【骨粗鬆症による骨折が医療費に与える影響】

- 2015年4月～2021年3月の間に大腿骨骨折または椎体骨折があった対象者群1,203人において、骨折した年の年間医療費は骨折前の1年間から合計約7億円増加していた
- 大腿骨骨折を起こした場合には、一人当たり年間医療費がおよそ160万円増加することから、骨粗鬆症による骨折を一件でも防ぐことの医療費に与えるインパクトは大きい

【骨粗鬆症の有病と治療の状況】

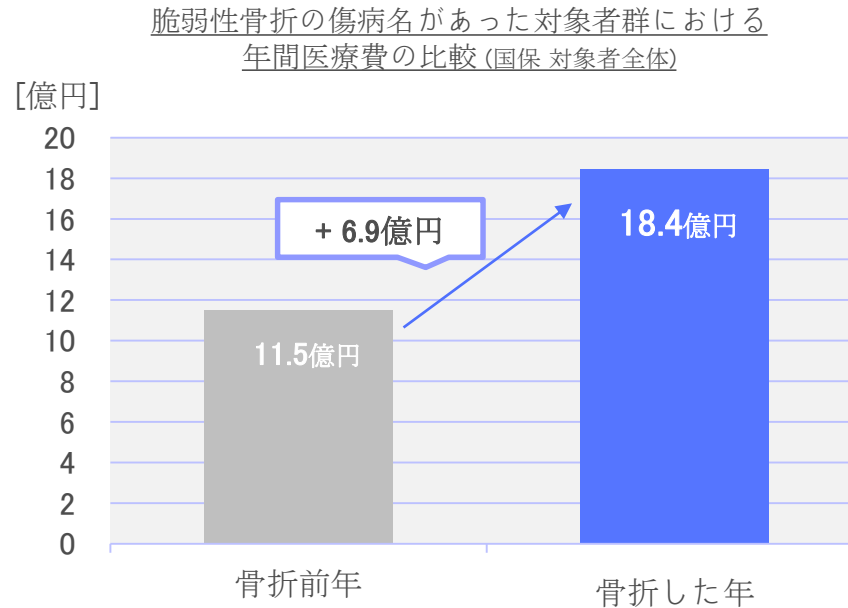
- 骨粗鬆症の推定有病者数に対して、治療をしている割合は3割に満たない
- また再骨折のリスクが高く、骨粗鬆症の治療対象である大腿骨骨折または椎体骨折の既往がある対象者においても、およそ44%の治療率にとどまっている

【考察】

- 従来より市で実施している骨粗しょう症検診により、骨粗鬆症の早期発見と予防を推進していくとともに、骨粗鬆症の治療率向上、特に骨折の既往歴がある二次骨折リスクの高い方の骨折予防が重要と考えられる

佐倉市国保における脆弱性骨折経験者の医療費発生状況(全体)

- 脆弱性骨折(大腿骨骨折または椎体骨折)の既往歴がある対象者数：1,203人
- これらの対象者群について、前年との医療費総額を比較すると骨折をした年には**6.9億円**の医療費が増加していると考えられる

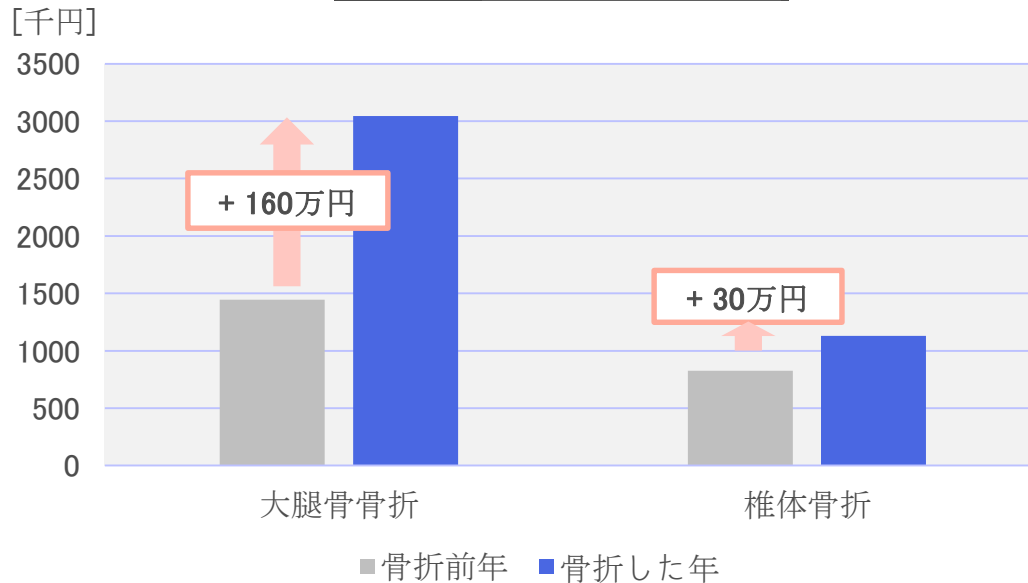


*2015年4月診療分から2021年3月診療分のデータをもとに集計した「佐倉市国保における脆弱性骨折経験者の医療費発生状況(一人当たり・年)」をもとに、該当期間に大腿骨骨折の傷病名が記録された253名と椎体骨折が記録された950名について、骨折前年と骨折した年の年間総医療費を算出した

佐倉市国保における脆弱性骨折経験者の医療費発生状況 (一人当たり・年)

- 前年比較で大腿骨近位部骨折経験者は160万円、椎体骨折経験者は30万円、それぞれ増加している

脆弱性骨折の傷病名があった対象者の
一人当たり年間医療費の比較(国保)

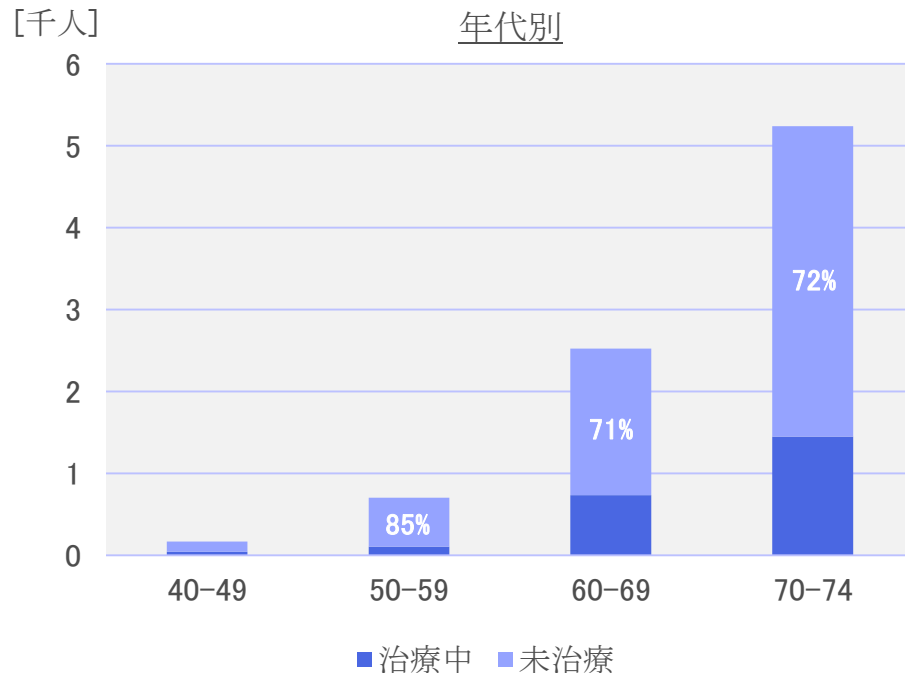
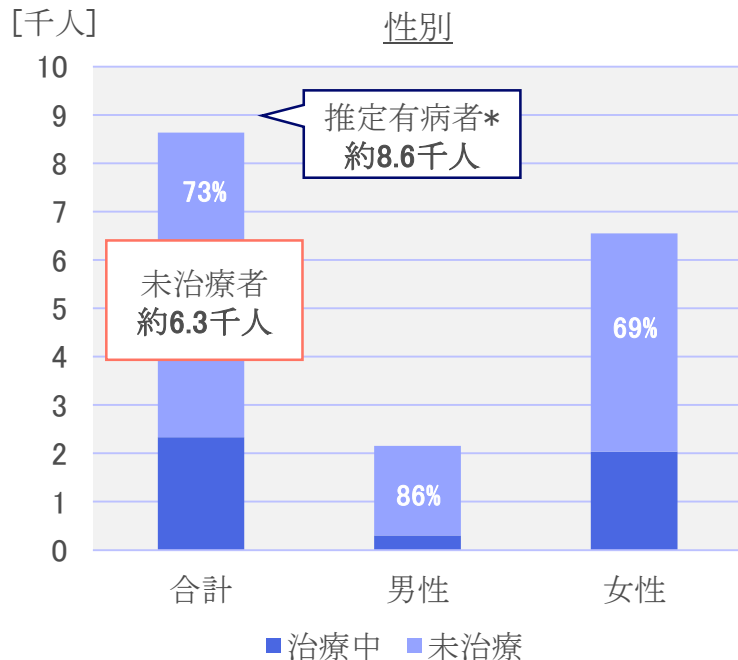


*脆弱性骨折の可能性の高い腰椎椎体または大腿骨近位部骨折の傷病名があったレセプトデータをもとに集計、その他の条件は以下の通り

- 2015年4月診療分から2021年3月診療分までのデータを対象期間とし、対象期間に1日でも佐倉市国民健康保険の資格を有していた40歳以上の48,698名を分析の母集団とした
- 対象期間中に初めて記録された骨折の確定傷病名を対象の骨折としてカウントした
- 骨折の傷病名が出現した月を0ヶ月とし、-1から-12ヶ月を骨折前年、0から11ヶ月を骨折した年として、該当する経過月の総医療費をもとに集計した

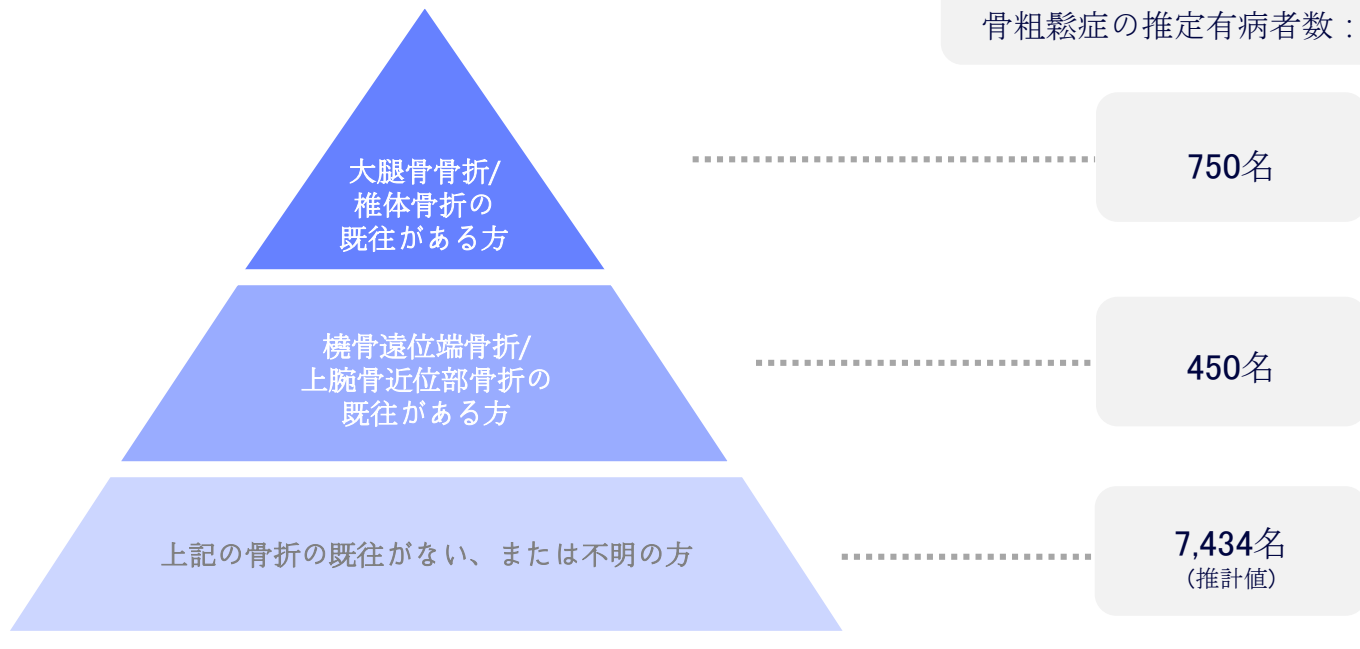
佐倉市国保における骨粗鬆症の推定有病者数と治療率

- 佐倉市における骨粗鬆症患者(40歳以上74歳未満の国保被保険者のうち)は約8.6千人と推定される。
そのうち73%(6.3千人)が現在治療を受けていないと考えられ、年代毎の治療率に大きな差異はない。



過去の骨折歴からみる骨折リスク毎の対象者分布

骨折リスク



佐倉市国保被保険者(40-74歳)における
骨粗鬆症の推定有病者数：8,634名

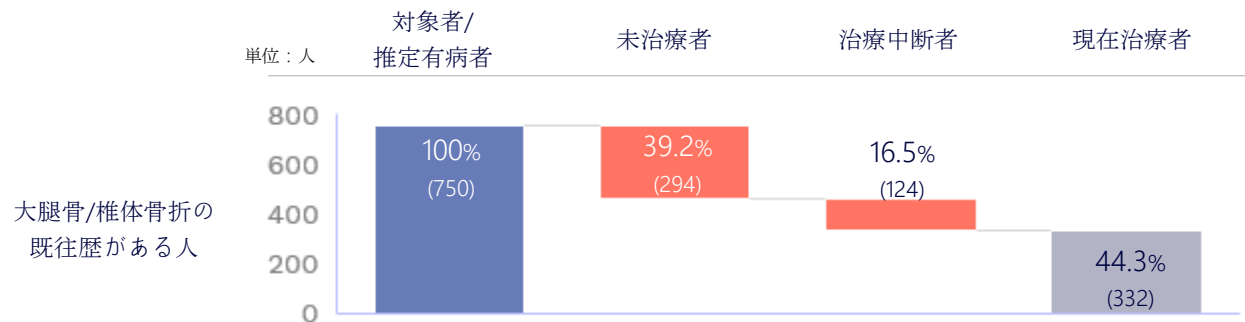
*骨折の既往がある方はレセプトデータの分析より算出、条件は以下の通り(詳細の条件はp29にも記載)

- 2015年12月審査分から2021年07月審査分のうち、2015年11月診療分から2021年06月診療分までのデータを対象期間とし、対象期間に1日でも佐倉市国民健康保険の資格を有していた40歳以上の48,698名を分析の母集団とした
- 対象期間中に初めて記録された骨折の傷病名を対象の骨折としてカウントした

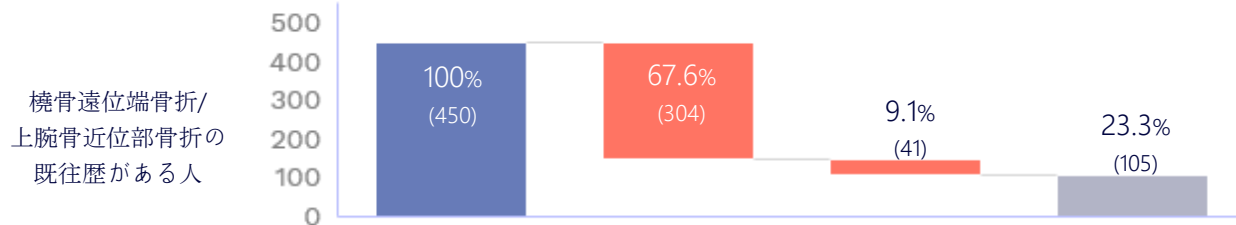
*骨粗鬆症の推定有病者数は、「Yoshimura N, Muraki S, Ola H et al. Prevalence of knee osteoarthritis, lumbar spondylosis, and osteoporosis in Japanese men and women: the research on osteoarthritis/osteoporosis against disability study J. Bone Miner Metab (2009) 27:620-628.」をもとに推計

過去の骨折歴毎の骨粗鬆症の治療状況

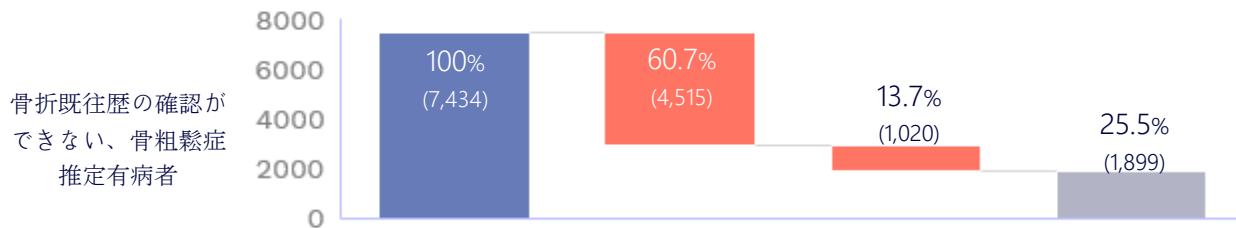
有病と治療の状況



- 再骨折のリスクが高く、またガイドライン上も骨粗鬆症の治療が必要とされている集団
- 現在治療を受けている方は、約44%にとどまる



- 再骨折のリスクが高いため、骨粗鬆症の検査が推奨される集団
 - 現在治療を受けている方は、約23%にとどまる
- *治療の必要有無は骨密度検査の数値によって判断される



- 人口構成と推定有病率から、約7.4千人の有病者がいると推定される
- 推定有病者に対して、過去に一度でも治療を受けた経験がある人は、約39%である
- そのうち、約35%が半年以上、治療を中断している

目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果

2. 疾患啓発事業の概要

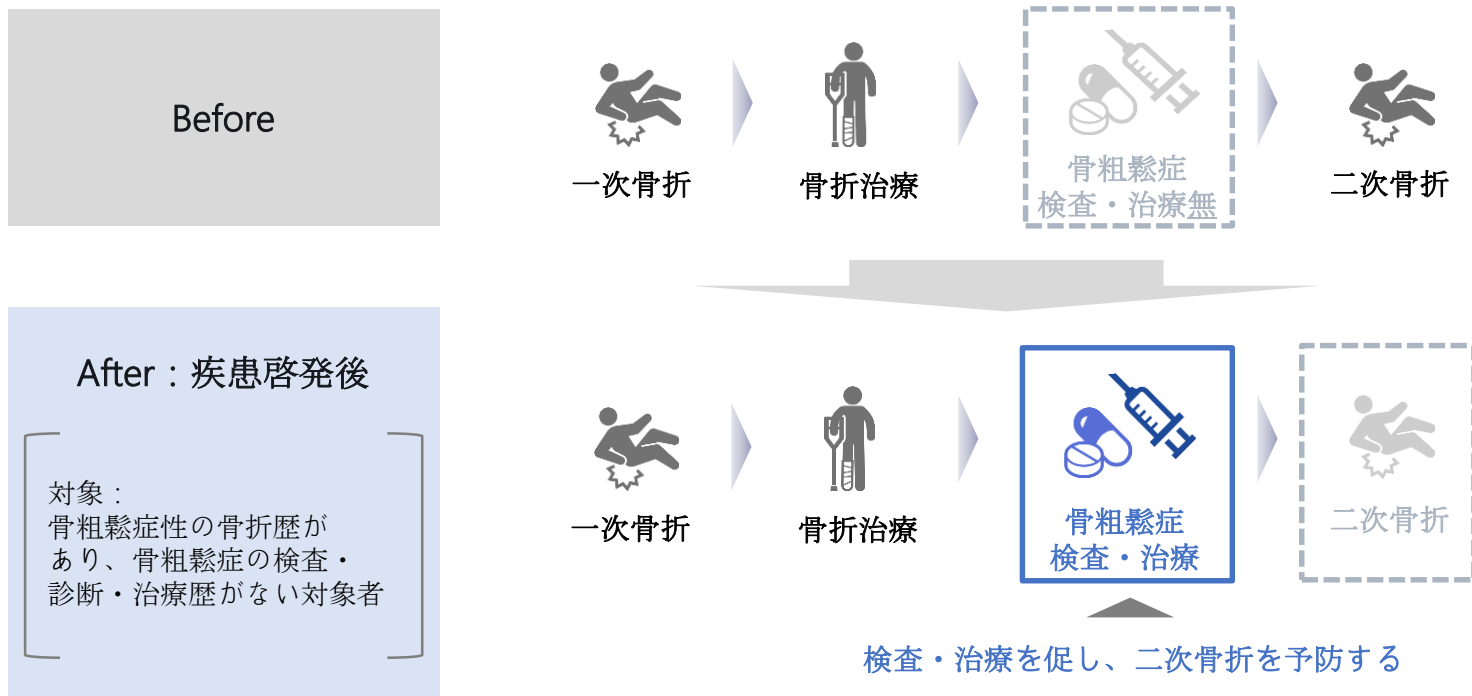
3. 事業結果

4. 参考資料

- 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
- 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
- 送付した勸奨資材

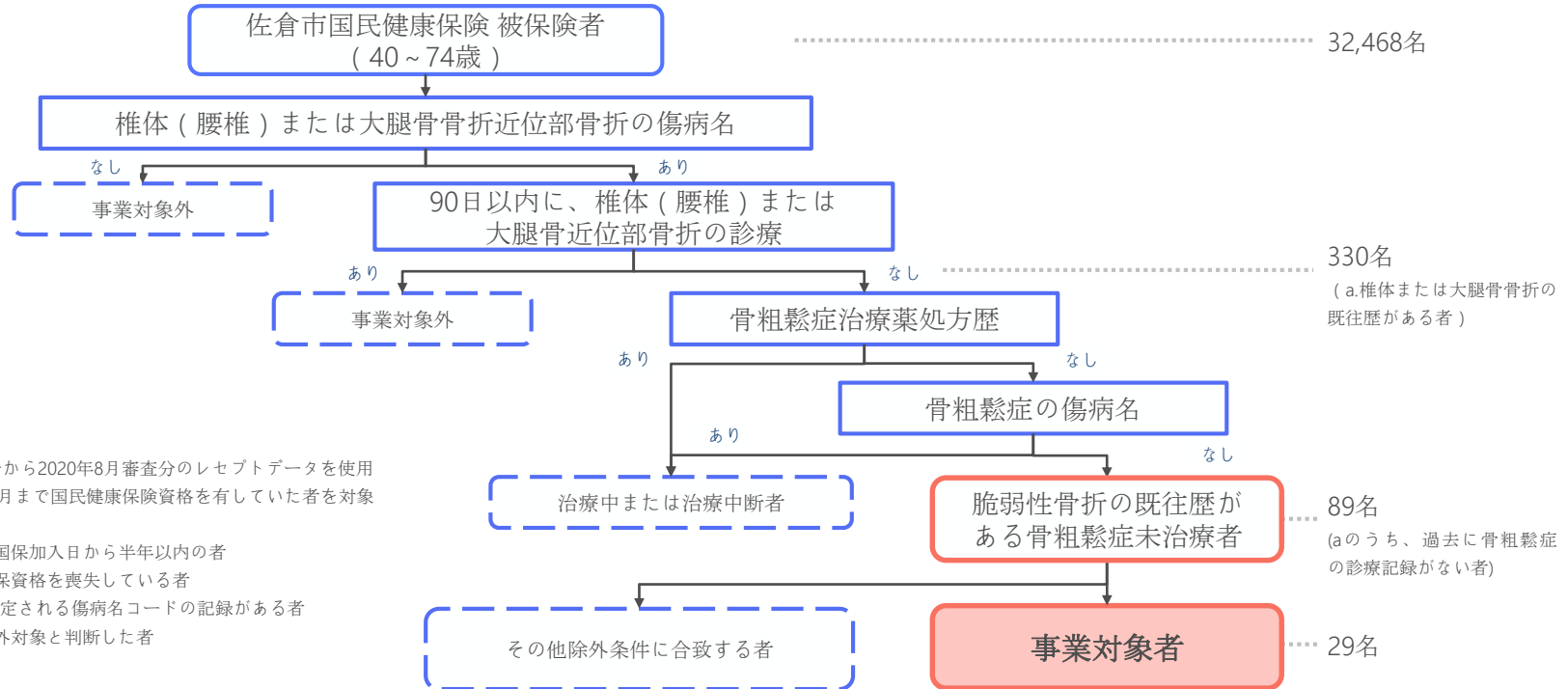
二次骨折予防を目的とした骨粗鬆症の疾患啓発事業

- 骨折医療費の低減と住民の健康増進を狙い、レセプトデータ（医科、調剤、DPC）の骨折歴、診療・治療歴、年齢などから骨折リスクの高い対象者を選定し、骨粗鬆症の検査・治療を推奨する受診勧奨を行った



事業対象者の選定方法

- 40-74歳の佐倉市国民健康保険加入者のレセプトデータより、以下の手順で事業対象者を選定した



【前提条件】

- ・ 2015年6月審査分から2020年8月審査分のレセプトデータを使用
- ・ 2020年2月から8月まで国民健康保険資格を有していた者を対象

【除外条件】

- ・ 骨折の傷病名が国保加入日から半年以内の者
- ・ 通知発送時に国保資格を喪失している者
- ・ CKD4期/5期が想定される傷病名コードの記録がある者
- ・ その他、市で除外対象と判断した者

事業対象者の背景情報

対象者の
選定

啓発通知
の送付

効果検証

事業対象者

	全体 (29名)
年齢 (平均, (標準偏差))	68.81歳 (±8.67)
男性 (人数, (%))	15名 (51.7%)
女性 (人数, (%))	14名 (48.3%)
大腿骨骨折の既往 (人数, (%))	4名 (13.8%)
椎体骨折の既往 (人数, (%))	25名 (86.2%)

*骨折部位は、レセプト期間中の最新の骨折部位を対象とした

大腿骨骨折・椎体骨折の両傷病名が同時に記録されていた場合は、大腿骨骨折を対象の骨折部位とした

事業対象者の背景情報 (性年代別内訳)

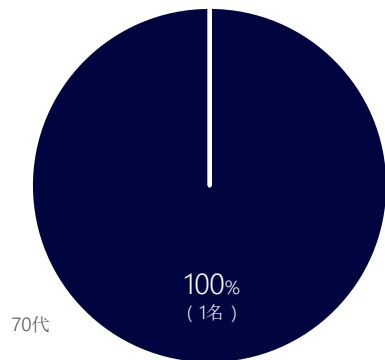
対象者の
選定

啓発通知
の送付

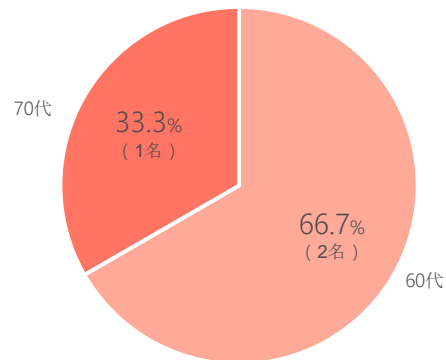
効果検証

男性 (15名)

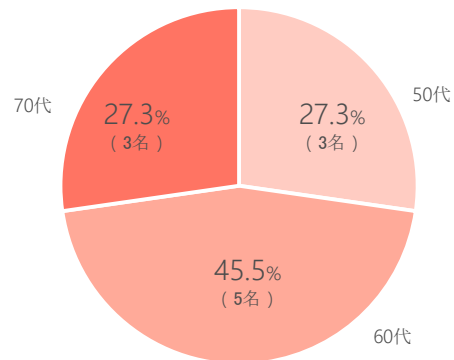
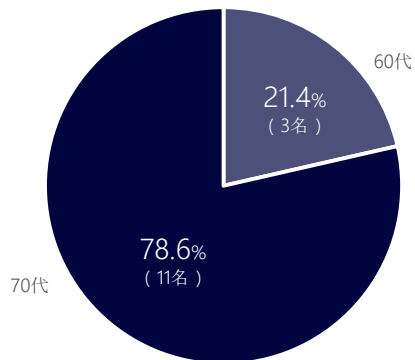
大腿骨骨折既往歴者 (4名)



女性 (14名)



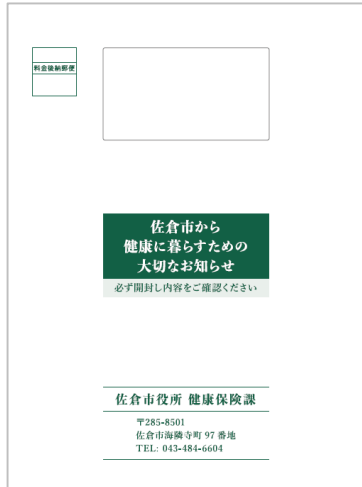
椎体骨折既往歴者 (25名)



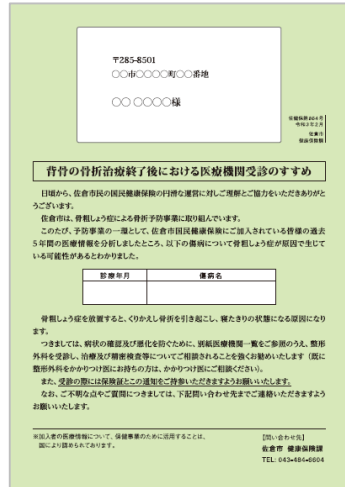
対象者に送付したメッセージ

- 骨折歴（骨折傷病名と最終診療年月）を記載した鑑文、医療機関リスト、リーフレットを封入した勧奨通知を送付した

封筒



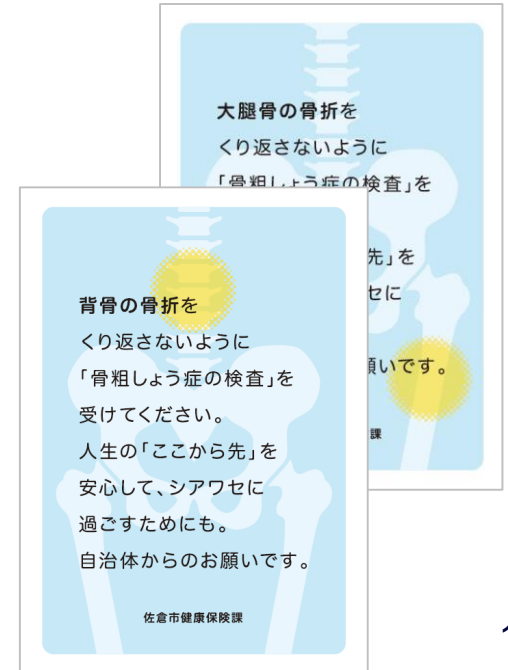
鑑文



医療機関リスト



リーフレット



目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果

2. 疾患啓発事業の概要

3. 事業結果

4. 参考資料

- 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
- 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
- 送付した勸奨資材

データ期間について

対象者の
選定

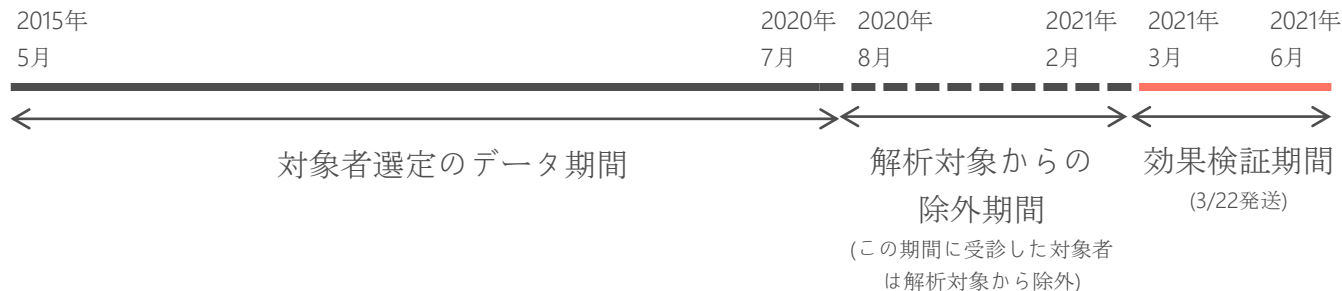
啓発通知
の送付

効果検証

- 約5年分のレセプトデータを分析し対象者を選定し、勧奨通知を3月22日に発送した
- 勧奨通知発送月から2021年6月診療分(7月審査分)までの約3ヵ月のレセプトデータを用いて、解析を行った
- 対象者選定後、発送までの約7か月間の間に「骨粗鬆症を目的とした受診*」をしていた対象者は、解析対象からは除外とした

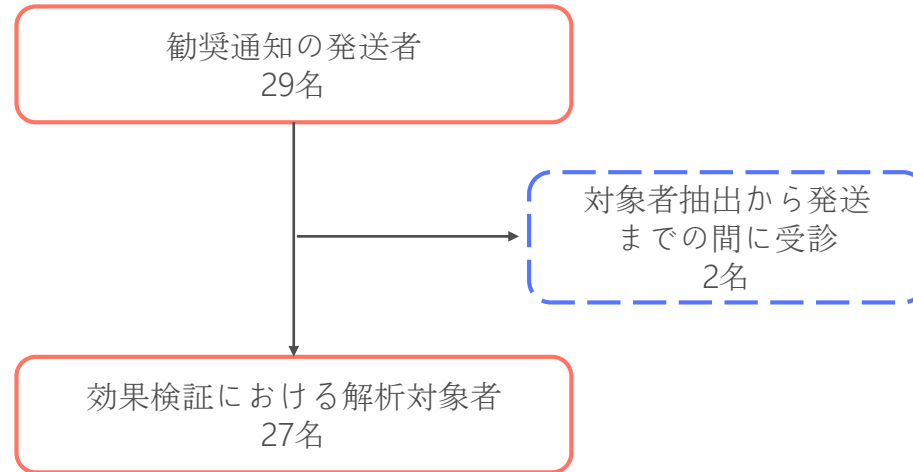
*本効果検証においては、以下のいずれかの条件を満たした場合に、「骨粗鬆症の受診がある」と定義した
レセプトデータの記録に「骨粗鬆症の傷病名がある」又は「骨密度検査の診療行為がある」又は「骨粗鬆症の治療薬がある」

データの使用期間について



解析対象者について

- 発送した29名のうち2名は対象者抽出から発送前の期間に受診をしていたため解析対象から除外し、27名を効果検証の解析対象者とした

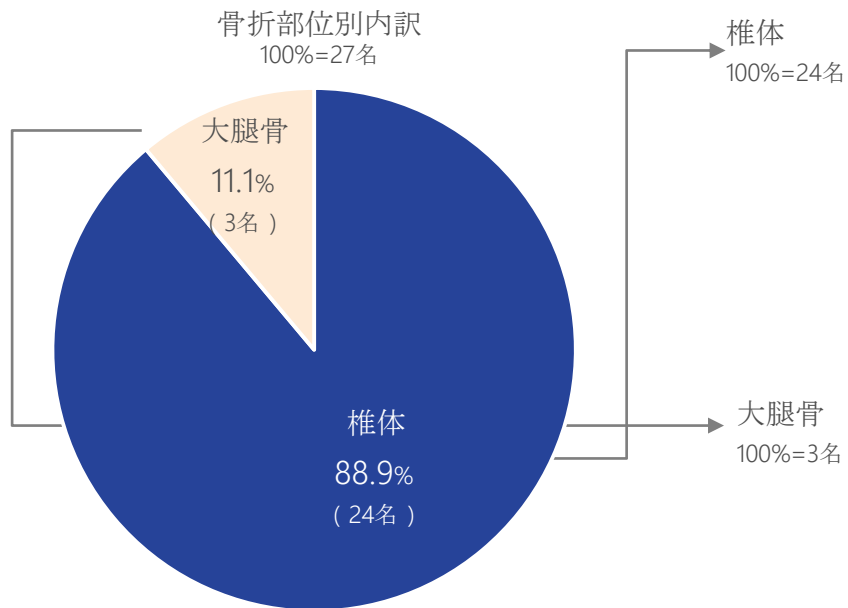


解析対象者の背景情報

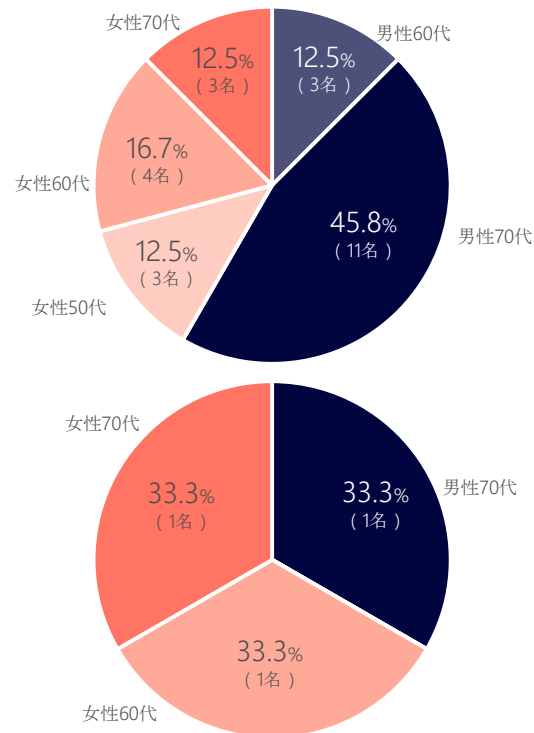
対象者の
選定

啓発通知
の送付

効果検証



骨折部位別の対象者の性年代分布



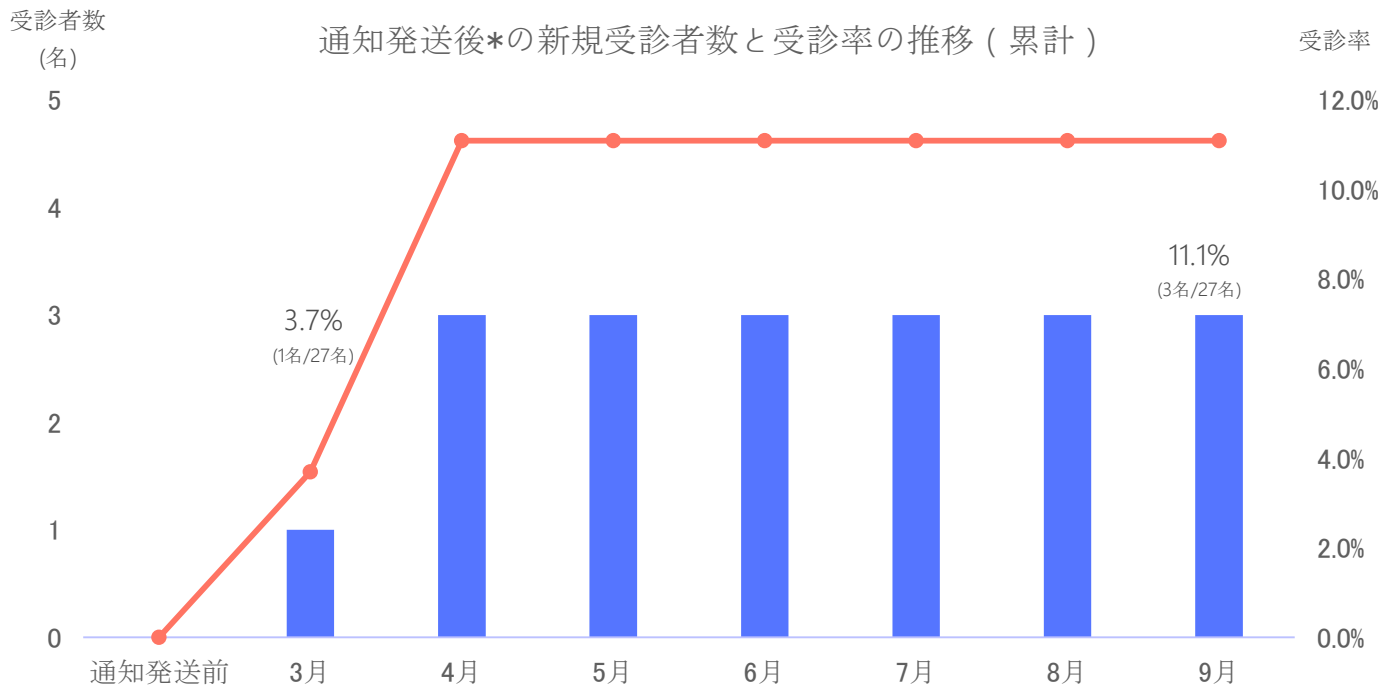
勸奨通知後の受診状況

対象者の
選定

啓発通知
の送付

効果検証

- 3月17日に勸奨通知送付後、9月までに11.1% (3名/27名) が骨粗鬆症を目的とした医療機関受診に繋がっている



*2021年3月22日に勸奨通知を発送後、9月診療分(10月審査分)までのレセプトデータを解析

医療機関受診状況の詳細

- 骨粗鬆症に関する受療を受けた者のうち、66.7%がDXA法による骨密度検査を受療している

	解析対象者	医療機関受診者*1		骨粗鬆症診療受診者		骨密度検査あり				治療薬あり		
		n(a)	n(b)	%(b/a)	n(c)	%(c/a)	DXA法		その他*2		n(g)	%(g/c)
事業対象者全体	27	23	85.2%	3	11.1%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	
骨折部位別	大腿骨骨折既往	3	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	椎体骨折既往	24	21	87.5%	3	12.5%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%
性別	男性	15	15	100%	2	13.3%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%
	女性	12	8	66.7%	1	8.3%	1	100%	0	0.0%	0	0.0%

*1：効果検証期間中、医科・DPCレセプトに何らかの保険診療の受療が記録されていた場合、「医療機関受診者」と定義した

*2：骨密度検査「その他」には、MD法/SEXA法、超音波法を含む

(参考) 同定義の対象者の、通知を送付しない 場合における受診傾向との比較

- 「事業対象者の選定方法」の頁に記載した「脆弱性骨折の既往歴がある骨粗鬆症未治療者」の条件を用いて、仮に本事業の前年同時期に事業を実施した場合の対象者を比較群として設定した
- 事業実施群での11.1%の受診に対して、比較群では2.2%の受診であり、通知を送付することにより受診率が向上する傾向がみられた

事業実施群と比較群の、新規受診者数と受診率の推移（累計）

	N月 (通知発送前)	N+1月	N+2月	N+3月	N+4月	N+5月	N+6月	N+7月
事業実施群（27名）	0	3.7%(1名)	11.1%(3名)	11.1%(3名)	11.1%(3名)	11.1%(3名)	11.1%(3名)	11.1%(3名)
比較群（45名）	0	0.0%(0名)	0.0%(0名)	0.0%(0名)	0.0%(0名)	0.0%(0名)	0.0%(0名)	2.2%(1名)

*比較群：2015年6月審査分～2019年8月審査分のレセプトデータによる「脆弱性骨折の既往歴がある骨粗鬆症未治療者」の、2020年3月～2020年9月の骨粗鬆症を目的とした受診の状況

目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果

2. 疾患啓発事業の概要

3. 事業結果

4. 参考資料

- 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
- 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
- 送付した勸奨資材

事業対象者の詳細(性年代別)

	佐倉市国保被保険者 (40-74歳)		A. 脆弱性骨折経験者				B. Aのうち、過去に骨粗鬆症の傷病名の記録および薬物処方歴がない者				C. Bのうち、通知勸奨を行った対象者				
			大腿骨骨折経験者		椎体骨折経験者		大腿骨骨折経験者		椎体骨折経験者		大腿骨骨折経験者		椎体骨折経験者		
	人数(a)	%	人数(b)	%(b/a)	人数(c)	%(c/a)	人数(d)	%(d/b)	人数(e)	%(e/c)	人数(f)	%(f/d)	人数(g)	%(g/e)	
全体	32,468	100.0%	69	0.21%	261	0.80%	24	34.8%	65	24.9%	4	16.7%	25	38.5%	
男性	40-49歳	2,502	7.7%	0	0.00%	6	0.24%	0	0.0%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%
	50-59歳	2,322	7.2%	4	0.17%	5	0.22%	2	50.0%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%
	60-69歳	4,449	13.7%	6	0.13%	22	0.49%	1	16.7%	11	50.0%	0	0.0%	3	27.3%
	70-74歳	5,926	18.3%	11	0.19%	46	0.78%	7	63.6%	21	45.7%	1	14.3%	11	52.4%
女性	40-49歳	2,107	6.5%	0	0.00%	1	0.05%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
	50-59歳	2,212	6.8%	3	0.14%	12	0.54%	2	66.7%	6	50.0%	0	0.0%	3	50.0%
	60-69歳	5,988	18.4%	17	0.28%	56	0.94%	5	29.4%	6	10.7%	2	40.0%	5	83.3%
	70-74歳	6,962	21.4%	28	0.40%	113	1.62%	7	25.0%	12	10.6%	1	14.3%	3	25.0%

*上記の表におけるA, B, Cの対象者は、それぞれp.12のフロー図上では以下に該当する

A. 脆弱性骨折経験者：a.椎体または大腿骨骨折の既往歴がある者

B. Aのうち、過去に骨粗鬆症の傷病名の記載および薬物処方歴がない者：脆弱性骨折の既往歴がある骨粗鬆症未治療者(aのうち、過去に骨粗鬆症の診療記録がない者)

C. Bのうち、通知勸奨を行った対象者：事業対象者

効果検証の詳細 性年代別の医療機関受診状況 内訳

	解析対象者		医療機関受診有		骨粗鬆症を目的とした受診あり		骨粗鬆症の確定傷病名あり		骨密度検査あり						
	人数(a)	%	人数(b)	% (b/a)	人数(c)	% (c/a)	人数(d)	% (d/c)	DXA法		MD法, SEXA法		超音波法		
									人数(f)	% (f/c)	人数(g)	% (g/c)	人数(h)	% (h/c)	
全体	27	100.0%	25	92.6%	3	11.1%	3	100.0%	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	
男性	40-49歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	50-59歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	60-69歳	3	11.1%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	70-74歳	12	44.4%	12	100.0%	2	16.7%	2	100.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%
女性	40-49歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	50-59歳	3	11.1%	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	60-69歳	5	18.5%	4	80.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	70-74歳	4	14.8%	3	75.0%	1	25.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%

目次

サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果
2. 疾患啓発事業の概要
3. 事業結果
4. 参考資料
 - 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
 - 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
 - 送付した勸奨資材

主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析

- 分析の目的
対象期間における佐倉市国民健康保険加入者の主要骨粗鬆症骨折の発生状況と、その後の骨粗鬆症の薬物治療の開始・継続状況を明らかにすることで、現状の骨粗鬆症の治療状況を把握し、さらなる骨粗鬆症対策の検討へと繋げることを目的とした
- 対象母集団
対象期間中に**40歳以上**であり、1日でも佐倉市の国民健康保険の資格を有していた者を対象母集団とした
- 使用データ
国民健康保険加入者の
 - 医科レセプト
 - **DPC**レセプト
 - 調剤レセプト
- 対象期間
2015年12月審査分から**2021年07月**審査分のうち、**2015年11月**診療分から**2021年06月**診療分までのデータを対象期間とした

主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析

【対象者の抽出条件、骨粗鬆症の治療薬の開始・継続状況の判定定義について】

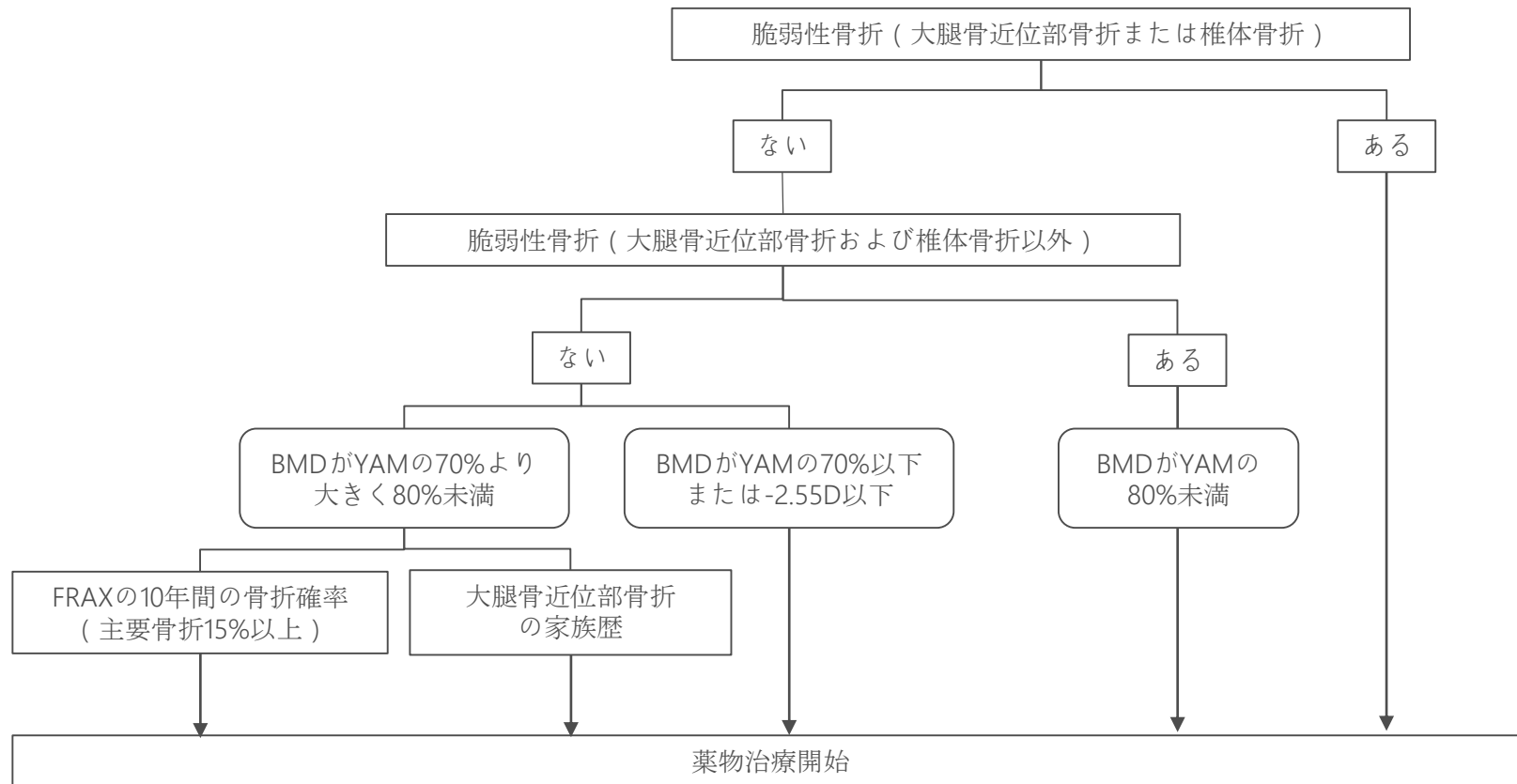
- 対象者の抽出条件
 - 対象期間中のレセプトデータに初めて記録された主要骨粗鬆症骨折の傷病名を対象の骨折とした
 - 複数の骨折傷病名が記録されていた場合には、“大腿骨骨折”>“椎体骨折”>“橈骨遠位端骨折”>“上腕骨近位部骨折”の優先順位で、対象者一人につき一種類を決定した
 - 骨折の傷病名の出現がない対象者については、“骨折経験なし”とし、骨粗鬆症の治療歴の有無と、継続状況の分析を行った
- 骨粗鬆症の治療薬の開始状況
 - 骨折経験者については、骨折の傷病名が出現した後に骨粗鬆症治療薬の記録があった場合、“治療あり”と判定した
 - 骨折経験なしの対象者については、対象期間中に骨粗鬆症治療薬の記録があった場合、“治療あり”と判定した
 - 本分析においては、**BP薬・SERM・PTH・抗RANKL抗体・抗スクレロシン抗体・活性型ビタミンD3薬・ビタミンK2薬・カルシトニン薬・イプリフラボン**を対象とした
- 骨粗鬆症の治療薬の継続状況
 - 骨粗鬆症の治療歴ありと判定された対象者のうち、対象者の国保資格喪失月を0として、-5~0ヶ月以内に治療薬の処方記録がない場合、“治療継続なし”と判定した
 - 対象期間の最新月まで資格を有していた対象者については、対象期間の診療月の最大値を資格喪失月として使用した

分析結果

- 大腿骨骨折経験者/椎体骨折経験者の、骨折後に1度でも治療を開始した割合はいずれも約61%であるが、その後の継続率を鑑みると治療率はそれぞれ約49%/約43%となる
- いずれの群においても、治療開始者における20-30%前後が、その後治療継続なしとなっている

	A. 全体		B. 骨粗鬆症の治療薬の開始状況				C. B-aの対象者の、骨粗鬆症の治療薬の継続状況			
	人数(a)	%	B-a. 治療あり		B-b. 治療なし		C-a. 治療継続あり		C-b. 治療継続なし	
	人数(a)	%	人数(b)	%(b/a)	人数(c)	%(c/a)	人数(d)	%(d/b)	人数(e)	%(e/b)
全体	48,698	100%	3,521	7.2%	45,177	92.8%	2,336	66.3%	1,185	33.7%
大腿骨骨折経験者	175	0.36%	107	61.1%	68	38.9%	86	80.4%	21	19.6%
椎体骨折経験者	575	1.18%	349	60.7%	226	39.3%	246	70.5%	103	29.5%
橈骨遠位端骨折経験者	351	0.72%	116	33.0%	235	67.0%	83	71.6%	33	28.4%
上腕骨近位部骨折経験者	99	0.20%	30	30.3%	69	69.7%	22	73.3%	8	26.7%
上記の骨折経験なし	47,498	97.54%	2,919	6.1%	44,579	93.9%	1,899	65.1%	1,020	34.9%

(参考)原発性骨粗鬆症の薬物治療開始基準



目次

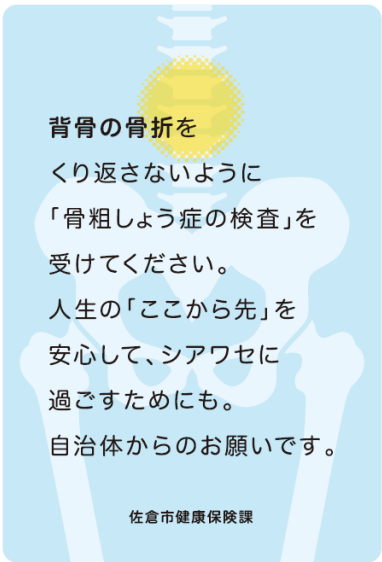
サマリ

1. 佐倉市国保データ分析結果
2. 疾患啓発事業の概要
3. 事業結果
4. 参考資料
 - 事業対象者の背景情報と、事業結果の詳細
 - 主要骨粗鬆症性骨折の発生状況と、骨粗鬆症治療状況に関する分析
 - 送付した勸奨資材

リーフレット（椎体骨折既往歴のある方）

- 椎体骨折既往歴がある方向けのリーフレットを制作した

表紙



背骨の骨折を
くり返さないように
「骨粗しょう症の検査」を
受けてください。
人生の「ここから先」を
安心して、シアワセに
過ごすためにも。
自治体からのお願いです。

佐倉市健康保険課

中面

1 一度骨折を経験している方は
また骨折する危険性が高まります。

原因と考えられる「骨粗しょう症」により、
再度同骨の骨折をくりかえす危険性は4～9倍、
大腸骨を骨折する危険性は2.8倍にもなるという研究があります。

4倍 ~ 9倍

2 その原因と思われるのは
「骨粗しょう症」の進行です。

加齢とともに骨量は減少します。
一般的には30%を下回ると
骨粗しょう症と考えられています。

3 「骨粗しょう症」は
治療で改善できます。

飲み薬で
骨代謝を
正常的に改善

定期的な注射で
骨そのものを強くする
ことができます。

検査の後に医師が適切な処方を行います。

4 とくに骨折経験のある方は
いまの状態を検査しましょう。

大腸骨近位部
検骨DXA

前腕DXA

骨量を計測するにはDXA法をおすすめします。骨折しやすい大腸骨や腰の骨、
腕の骨を直接測定できるので、より正確な診断をすることができます。
全く痛みのない検査で、骨粗しょう症の治療が必要かどうか分かります。

裏表紙

5 お近くの整形外科医に
ご相談ください。

放っておいて
また骨折してしまうと
怖いことになる危険性
もあるんですよ

すぐに相談して
よかったです！

骨粗しょう症は、これからの生活の質(Quality Of Life)に
大きな影響を及ぼすことになりかねない「進行性の症状」です。
いくつになっても今後の生活を考えてご相談ください。

リーフレット（大腿骨骨折の既往歴の方）

- 大腿骨骨折の既往歴がある方向けのリーフレットを制作した

表紙

中面

裏表紙

大腿骨の骨折を

くり返さないように

「骨粗しょう症の検査」を

受けてください。

人生の「ここから先」を

安心して、シアワセに

過ごすためにも。

自治体からのお願いです。

佐倉市健康保険課

- 1** 一度骨折を経験している方は
また骨折する危険性が高まります。

原因と考えられる「骨粗しょう症」により
再度、大腿骨の骨折をくりかえす危険性は
4倍にもなるという研究があります。

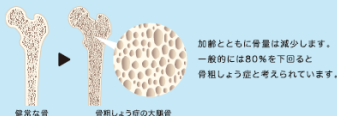
4倍

- 3** 「骨粗しょう症」は
治療で改善できます。

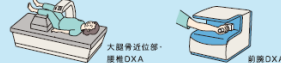


検査の後に医師が適切な処方を行います。

- 2** その原因と思われるのは
「骨粗しょう症」の進行です。



- 4** とくに骨折経験のある方は
いまの状態を検査しましょう。



骨量を計測するにはDXA法をおすすめします。骨折しやすい大腿骨や腰の骨、
腕の骨を正確測定できるので、より正確な診断をすることができます。
全く痛みのない検査で、骨粗しょう症の治療が必要かどうか分かります。

- 5** お近くの整形外科医に
ご相談ください。

放っておいて
また骨折してしまうと
痛みきりになる危険性
もあるんですよ

すぐに相談して
よかったです!



骨粗しょう症は、これからの生活の質(Quality Of Life)に
大きな影響を及ぼすことになりかねない「進行性の症状」です。
いくつになっても今後の生活を考えでご相談ください。